

6 月

新着本の紹介



青字は児童書

| 書名 | 著者名 | 内容 |
|----------------|--------|--|
| 情熱の砂を踏む女 | 下村敦史 | 闘牛士になった兄が死んだ。妹の怜奈は兄の死を悼むためにスペインへと向かう。そこで兄がトラブルに巻き込まれていたのではという疑念を抱く。なぜ、兄は無謀ともいえる大技に挑まなければならなかったのか？真相を探るうち、やがて怜奈は、闘牛の世界に魅入られていき……。著者が15年かけて綴った圧巻の闘牛ドラマミステリー。 |
| マイクロスパイ・アンサンブル | 伊坂幸太郎 | 失恋したばかりの社会人と、元いじめられっ子のスパイ。知らないうちに誰かを助けていたり、誰かに助けられたり……。ふたりの仕事が生々しく交錯する現代版おとぎ話。今、見えていることだけが世界の全てじゃない。優しさと驚きに満ちたエンターテインメント小説！ |
| マスカレード・ゲーム | 東野圭吾 | 解決の糸口すらつかめない3つの殺人事件。共通点はその殺害方法と、被害者はみな過去に人を死なせた者であることだった。捜査を進めると、その被害者たちを憎む過去の事件における遺族らが、ホテル・コルテシア東京に宿泊することが判明。警部となった新田浩介は、複雑な思いを抱えながら再び潜入捜査を開始する……。累計480万部突破シリーズ、総決算！ |
| 人面島 | 中山七里 | 相続鑑定士の三津木六兵の肩には人面瘡が寄生している。毒舌ながら頭脳明晰なその怪異を、六兵は「ジンさん」と呼び、頼れる友人としてきた。ある日、六兵が派遣されたのは長崎にある島、隠れキリシタンの財宝が眠るという、通称「人面島」一。毒舌人面瘡のジンさん&ポンコツ相続鑑定士ヒョーロク、孤島の密室殺人に挑む！ |
| スタッフロール | 深緑野分 | 戦後ハリウッドの映画界でもがき、奮闘した特殊造形師・マテルダ。脚光を浴びながら、自身の才能を信じ切れず葛藤する、現代ロンドンのCGクリエイター・ヴィヴィアン。CGの嵐が吹き荒れるなか、映画に魅せられた2人の魂が、時を越えて共鳴する。"夢"を生み出すことに人生を賭した2人の女性クリエイター。その愛と真実の物語。 |
| ついでにジェントルメン | 柚木 麻子 | 編集者にダメ出しをされ続ける新人作家、女性専用車両に乗り込んでしまったびっくりするほど老けた四十五歳男性……などなど、なぜか微妙に社会と歯車の噛み合わない人々のもどかしさを、しなやかな筆致とユーモアで軽やかに飛び越えていく短編集。分かるし、刺さるし、救われる——自由になれる7つの物語。 |
| 風の港 | 村山早紀 | そんな時は待とう、静かに。諦めず。いい風があなたに吹く日まで。そこに降り立ち、飛び立つまでのひととき。旅人たちの人生が交差し、奇跡が起こる。「花を撒く魔女」をはじめ全5話の空港物語を収録。 |
| 菜の花の道 千成屋お吟 | 藤原緋沙子 | よろず相談を受けるお吟に、呉服太物商・天野屋から依頼が舞い込んだ。遊びほうけるおはつこの今の亭主・多七を更生させてほしいという。お吟は多七を調べ始めるが……。よろず御用承り所『千成屋』の女将お吟は、悩みを抱える人々に今日も寄り添う。 |
| いえ | 小野寺史宜 | 社会人3年めの三上傑。傑の友だちで妹・若緒の恋人、大河が事故を起こし、若緒はハンデを負う。家族ぐるみの付き合いだった大河を巡り、三上家はどこかぎくしゃく……。家族と、友と、やりきれない想いの行き先を探す物語。 |
| 孤剣の涯て | 木下昌輝 | 徳川家康が天下を統一し、世の中からは急速に戦国の気風が消えていった。かつて戦場で名を馳せた宮本武蔵の剣も、時代遅れの遺物になり果てていた。その頃、大御所・徳川家康に「2年後に死ぬ」呪いがかけられた。その呪いを解くには、妖刀村正で呪詛者の首を刎ねなければならない。世を捨てると決めていた武蔵の元にその依頼が……。 |
| 彼女が知らない隣人たち | あさのあつこ | 地方都市で暮らす咏子は、パートとして働きながら高校生と小学生の子どもたち、夫と平凡な毎日を送っていた。だが連続爆発事件が発生し、今まで気にも留めなかった周囲の異変に気がついていく……。いったいなぜこの町で、こんなことが？ 咏子は今まで気にも留めなかった、周囲の異変に気がついていく……。 |

| | | |
|-----------|--------|--|
| おにぎり おにぎり | 長野ヒデ子 | おばあちゃんが、おかまでごはんを炊いて、おにぎりを作りました。できあがったのは、おいしそうな、うめぼしの入ったおにぎりです。「わたしもやりたーい」女の子もおにぎりを作りはじめ…。 |
| 大ピンチずかん | 鈴木のりだけ | 「ああ、もうダメだ。おわった。これは大ピンチだ！」 きみがそう思うのはどんな時？ 飲もうと思って注いだ牛乳がこぼれた。ガムをのんだ……。 大ピンチというのは、日常生活を送る中で、いつだって突然にやってくる。大人になってみれば小さなピンチに見えることだって、子どもたちから見れば、それは立派な「大ピンチ」。どうのりきればいい？ |

【お知らせ】

新しい雑誌を配架しました！

- 一般書
- NHKテレビテキスト「囲碁講座」
- 「すてきにハンドメイド」
- 「ESSE」
- 児童書

